

子どもまつり 閉会あいさつ

多田東小学校のみなさん、今日の子どもまつりはどうでしたか？

昨年度は、コロナ禍における感染拡大防止対策として、フロアごとの開催、かつ、2年生は残念ながら別途設定という変則的な開催でしたが、本年度は、全学年が揃うスタイルで行うことができました。

クラスのみinnで協力して、何をするのか、どんなことをするのか、ゼロから考えて、話し合い、計画をして、その計画に則って、準備を進め、リハーサルをして、今日という本番を迎えました。

今日の、この子どもまつりは、ただの楽しいだけのお遊びの場であるとは、私は捉えていません。

みなさんは、まだ、子どもですが、将来出ていく、生きていく、おとなの世界、本当の社会の、ミニチュア版、小さな小さな社会、学びの場であると考えています。

今日の子どもまつりの中では、自分と違う学年の子どもたち、年上の人もいれば、年下の人もいたでしょうし、その相手に合わせて、遊び方を言葉を考えて変えてお話ししたり、やり方を一緒にわかりやすく、やって見せたり、たくさんの大事なかかわり、ヒトとヒトのかかわりが生まれたことと思います。

私は、このヒトとヒトのかかわりが、将来、おとなの世界を生き抜いていくうえで、みなさんの成長には、とても大事であると考えています。

今日のこの子どもまつりという特別な状況だけで、ヒトとヒトのかかわりが生まれるのではありません。日常の生活の中、例えば、登下校の中で、一人で歩いている子、困っているような子がいたら、「どうしたの？、一緒に行こう、帰ろう」と声かけて、行動できることが大事だなあ、あなたたち自身を成長させる場面だと考えています。

ヒトとヒトのかかわりを積極的に自分から求めていく、多田東小の子どもたちになっ
てほしいと願っています。

今日の子どもまつりで気づいたこと、感じたこと、「こんなことが楽しかった」「来年度は、こんなふうに工夫を足してみたい」「お友だちのこんな様子がいいなあと感じた」というようなことを、今日、この後、ふりかえり、次につなげましょう。

私から以上です。